

全国曹洞宗青年会創立 40 周年記念事業

全国徒弟研修会 WITH 国際子ども禅の集い

つながる想いが未来を拓く



趣意書

製作 全国曹洞宗青年会 40 周年事業委員会 委員長 荒木道宗



企画趣旨

宗門の未来を担う子どもたちに今しか出来ない体験を

・「繋がる想いが未来を拓く」 なぜ、徒弟研修なのか

はじめに

二祖峨山韶碩禪師 650 回大遠忌予修法要年である本年、全国曹洞宗青年会（以下、全曹青）も発会より 40 年を迎えることとなりました。御両尊大遠忌は「相承一大いなる足音が聞えますか—」をテーマに、第 20 期全曹青では「繋がる想いが未来を拓く」をスローガンとしています。いずれも“而今”の行事を積み重ねることで、過去に学び、より良き未来を相承し開拓していくことを意味しており、宗門も全曹青も、その思慕の念を次世代に繋げ未来を拓く契機となる記念事業にして参りたく諸事業を計画しております。

当機において最も肝要である理念は「先達が歩まれ、その遺業を新人が繋ぐ」と「人材育成と教団の将来ビジョン」ということです。

これを受け、今回は、私たち宗門における大いなる可能性を保持する新人の内、なかんずく難僧である「徒弟」に焦点を当て、先人である祖師方の御教えを徒弟衆に相承せしむることは、私たちの責務でもあり、それは大遠忌・宗門が未来を觀る事に他なりません。

また、大本山總持寺は「開かれた禅苑」として、国内外の宗教家、求道者たちの参究の場としての役割も担っています。グローバリズムという混沌によって、時代に飲み込まれる個人が増えつつあるいま、政治経済のみならず、思想や宗教の分野においても、今後より一層の国際化が希求される中において、いかなる場合にも衆生に寄り添う「大悲の禅」の御教えが、これまで以上に積極的・能動的に海外へ発信されることが望まれます。

大遠忌予修法要年の 5 月からは、欧米国際布教総監部よりの参加も予定されております。この絶好の機会に、宗門参加徒弟、国際布教総監部と、WFBY（世界仏教徒青年連盟）といった海外の同世代仏教徒との交流を通して、お互いが多様な仏教的価値観を構築・共有して、「禅」が「ZEN」へと繋がる国際感覚の豊かな“個個至尊”とした人材の育成を目指す有意義な機縁としていく考えです。

つきましては、御両尊大遠忌、並びに全曹青創立 40 周年記念事業の一環として、正伝の仏法の「相承」といった、繋がる想いが未来を拓く「全国徒弟研修会」を開催いたしたく存じます。

・古教照心の示訓を旨に 「相承」650 回忌大遠忌法会

禪師さまとともに祖師の生き方、教えに学ぶ

瑩山禪師より仏さまの教えを受け継いだ峨山禪師は、總持寺の基礎を築かれました。さらにその教えは、弟子達をはじめ代々の祖師方に受け継がれ広まっていきました。そうした大いなる流れの上に私たちが存在しているのです。私たちは、その教えをさらに未来に向けて伝えていかなければなりません。

大いなる足音とは、峨山禪師や歴代祖師の遺した偉大な足跡や教えはもとよりですが、私たちが伝えるべき未来への足音をも意味します。その足音に耳を澄ますということは、過去に学び、より良き未来を築くことなのです。研修会では大遠忌を良縁として、宗門を担う徒弟とともに、その足音をたどっていきます。



・ 互いに入水和合する ・

僧堂の生活から今の自分を考える

本研修会では、全国の宗門寺院徒弟が大本山總持寺様に結集し、

- (1) 紫雲台猊下を大導師に仰ぎ、宗門寺院徒弟が配役について大遠忌予修法要を行い、参加者とともに貴重な経験と感動を共有共感すること。
- (2) 紫雲台猊下にご臨座賜り、猊下の摩頂撫育を頂戴しながら坐禅、勤行、食事、作務等を行ずること。
- (3) 「禅」を多角的に学ぶ機会として、上記以外に精進料理の想いと作法等を学ぶこと。WFBY（世界青年仏教徒連盟）からの参加者と交流し「違いを理解し、解り合う」人権学習も含めた研修も同時に行うこと。

を三大支柱として、企画を展開する所存です。



・ 自由で創造的な活動のために ・

なぜ、いま国際研修なのか

未来を担う宗門徒弟の子供たちに、仏教と出家主義が今も深く社会生活に活かされ、僧侶に帰依することを社会通念とする異国の厚い信仰に触れる機会を設けることを目的に計画する事業です。昨今の我が国の若者の内向き志向は、諸外国に比しても深刻な数字に達し、グローバルな視野を備えた宗教人の育成は急務であります。隆盛著しいアジア圏の宗教群のなかで、日本を代表する宗門である我々曹洞宗は、その大きな責任に応じた発言力と思索力を以て、海外の人々にも伝わる言葉と技法で示していかなばなりません。本事業はその大きな未来への小さな一歩ですが、数十年後の未来を見据える曹洞宗に欠くべからざる事業であり、昨今叫ばれる仏教再生のきっかけの一つともなると考えるものです。



我々全曹青が、前第 19 期より全日本仏教青年会の理事長（村山博雅師）を輩出したことは、周知のところで存じます。全日仏青は村山理事長を中心にアジア圏諸国を積極的に訪問し、交流を深めました。今年 3 月 11 日に福島県福島市音楽堂にて開催されました、『東日本大震災追悼慰霊・復興祈願法要並びに復興イベント「音と祈り、未来への光」』においても、各国より復興への祈りを頂戴しましたことは、まさに村山理事長の尽力の結果であることは明白です。さらに、今年 8 月に福島県いわき市において開催されました、「東日本復興支援・国際仏教徒青年交換プログラム IBYE」においてもアジア諸国に被災地の今を正確に発信するという意味で大きな功績をあげました。その中において我々全曹青は役割を担い、参加させていただいたことの良縁は、今後の全曹青活動に必ず活かされるものであります。更に、村山師は現在、全曹青顧問・全日仏青国際委員長・世界仏教徒青年連盟(WFBY)副会長として諸外国に度々訪問しております。この現状を鑑みますと、全曹青さらには曹洞宗が他国、特に欧米に限らずアジア諸国の仏教徒との繋がりをより密にできる、まさに今が好機であります。その良縁を繋げるためにも、この海外徒弟研修が我々青年僧侶はさることながら、順応性、吸収力に優れた子供たちには大きな意味を持つ要因の一つであると考えます。



付け加えるならば、昨今、僧堂安居における出家者の覚悟が問題となっております。以前では想像も付かなかった保護者（修行者の両親）からのクレーム・要望等は、修行道場へ送り出す親（師匠）と息子（修行者）が“出家する”という

事に対して真剣に我が事として捉え、正しく法を後生へと伝えていない現状が見受けられます。これは、僧堂安居というものに対する今後の価値観の根本が大きく揺らいでしまう可能性があると考えます。今回の全曹青の取り組みは約 3 万の仏教寺院があり、約 40 万人の僧侶がいるといわれているタイ王国において徒弟研修を実地することにより「出家することは最大の功德で、出家して初めて 1 人前として認められる」というタイ社会の風潮を肌で感じることの出来る研修内容を企画しております。また、タイの寺院は信仰の場として多くの人々が祈りを捧げにやってくるだけではなく、時として集会所や相談所、娯楽の場、病院、学校など、あらゆる機能と役割を果たしております。人々の生活には仏教が深く根付いており、冠婚葬祭などの際には僧侶が必ず呼ばれ、儀式を執り行う。こういった僧侶の在り方は時として葬式仏教と揶揄される日本仏教の未来に対して、可能性を拓ける取り組みであると考えられます。

我々、引率の全曹青会員も徒弟研修を通じて学んだことを冊子にまとめ『僧堂安居における基本的な作法・心構え』と題して、修行の第一歩を踏み出す若者への手引き書となるべく編纂し、配布する事業も検討しております。さらには、全日仏青を通して頂いたアジア圏諸外国との良縁を、未来へ繋げるため、宗門徒弟の可能性を広げるために、継続的な交流を深める取り組み、事業も推進していく所存です。

世界でひろがる「ZEN」のちから～曹洞禅の可能性を徒弟研修に～

1903 年にペルー、ハワイに始まり、現在では曹洞宗国際センター、ハワイ、北アメリカ、南アメリカ、ヨーロッパにそれぞれ国際布教総監部を置き敷衍される曹洞禅は、宗門諸先輩御老師方の努力により国際社会における仏教の代名詞になっていると言っても過言ではない。徒弟研修期間中、欧米のみならずアジア諸国においても、最大の注目を集める日本仏教の「禅」について、坐禅・修行・書道・精進料理など、現地一般の参加者も募ったワークショップを開催し、世界で広がる「ZEN」のちからについて、実際の経験によりそれぞれ徒弟の皆様方に肌で感じていただく。また、海外にて布教活動を行っておられる講師もお招きし、未来を担う子どもたちと共に海外でのさらなる曹洞禅の可能性について考える。この経験は宗門の未来を担う徒弟の皆様方の宗侶としてのアイデンティティの確立と教学の習得・修行に対するモチベーションアップに多大なる効果を期待できると確信する。



徒弟研修をきっかけにアジア諸国における宗門のさらなる国際化～世界仏教徒青年連盟(WFBY)と連携～



世界仏教徒青年連盟(WFBY)は、公益財団法人全日本仏教会が加盟し日本センターを担当する世界仏教徒連盟(WFB)の青年会であり、アジアを中心とする 18 カ国 38 地域センターから組織される世界最大の仏教青年会である。当会は、その世界仏教徒青年連盟(WFBY)日本センターである全日本仏教青年会(JYBA)の国際委員会(委員長 村山博雅 当会顧問・副委員長 櫻井尚孝 当会会長)を担当し、日本の伝統仏教青年会における国際活動の代表を担っている。日本国内における急激な英語人口の増加に伴う国際化と将来当会に入会する青年宗侶の国際活動に対するニーズ、並びに曹洞宗が加盟する全日本仏教会 60 周年記念事業として 2018 年日本誘致される世界仏教徒連盟(WFB)世界仏教徒青年連盟(WFBY)世界大会を見据えた上で、創立 40 周年記念事業の一環として、当会自体の国際化、並びに国際的視野を有する青少年宗侶の育成を目的とした各種国際事業を、徒弟研修とともに遂行する。自身のおかれている状況を見つめ、世界に広く目を向けるために以下の活動を行う。

世界における宗門の活動について知る

- 伝統ある曹洞宗国際布教について学習するとともに、欧米に位置する国際センターや国際布教総監部を拝登し、布教現場を通じた実際の国際交流並びに研修を行う。
- 世界仏教徒青年連盟(WFBY)が主催する大会並びに各種研修プログラムへの参加と当会内におけるその内容の情報共有をはかり、国際的仏教社会観を学び、海外仏教徒との親密な交流を行う。

世界の青年仏教徒と交流し世界における自身について考える

- 仏教を通じた青少年育成と国際交流を目的として、世界仏教徒青年連盟(WFBY)が発信し各国で開催されている、国際仏教徒青年交換プログラム(IBYE)への青年宗侶をはじめとする青少年の参加動員と会員による引率を行う。
- 上記、国際仏教徒青年交換プログラム(IBYE)の日本大会(福島県いわき市開催)を全日本仏教青年会(JYBA)国際委員会として準備、運営する。(開催済み)
- 海外における仏教の認識について、「禅」優位性を念頭に、曹洞宗としての坐禅・修行・書道・精進料理等のワークショップを開催する。

国際活動において次代を担う青年宗侶並びに青年仏教徒を発掘する

- 上記、国際仏教徒青年交換プログラム(IBYE)や国際仏教徒青年交換フォーラム(IBYF)の参加資格を有する青年仏教徒で構成される CLUB25 を設け立する。現在、世界仏教徒青年連盟(WFBY)加盟各国における青少年国際交流メンバーCLUB25 は、各国内の仏教団体それぞれが分掌している。国際活動に関わる青少年の育成と確保は全仏をはじめとする国際活動を行う仏教団体における長年の懸案事項であり、日本において曹洞宗管轄の CLUB25 を設立できれば、国内仏教団体初の快挙となる。

今回の企画のポイント

- ・ 大本山總持寺の大遠忌事業に相応しい研修内容とする
- ・ 宗門全体に支援・参加して頂ける内容とする
- ・ 二十五哲を端緒とする人材育成にならう
- ・ 学園経営などの社会貢献
- ・ 国際禅苑
- ・ 交通の利便性のある本山を活用する

總持寺ホームページより

現在の總持寺は横浜市の郊外、前に東京湾と房総半島を望み、後に富士の靈峰がそびえる景勝の地、鶴見が丘に位置し、J R 鶴見駅より徒歩わずか 5 分という交通の便の良さに加え、わが国の海の玄関・横浜に位置するところから、国際的な禅の根本道場として偉容を誇っています。このすばらしい地に 15 万坪の寺域を有し、鉄筋製の大伽藍をはじめ多くの諸堂が建てられ、能登總持寺の開創から数えて 591 年目の明治 44 年 11 月 5 日、盛大な遷祖式が執り行われました。

山内には、学校法人総持学園として、三松幼稚園、鶴見大学附属中学校・高等学校、鶴見大学、さらに社会福祉法人諸岳会として、總持寺保育園、精舎児童学園等を経営し、社会に貢献しております。

本山に於いても、各種教化事業を推進し、約 200 名に及ぶ役寮、大衆（修行僧）、寺務職員、パート職員が一丸となって、寺門の興隆につとめております。

宗門が協力するメリット

- ・ 大規模な徒弟研修を行うことにより、人材育成をアピールできる。
- ・ 宗門内での人材育成に対する啓蒙。徒弟研修の重要性を再認識。
- ・ 参加者が将来的に 50 年後の遠忌事業を担っていける。
- ・ 徒弟を通して、住職・寺族にも遠忌事業への理解を促進させることを期待できる。
- ・ 全曹青が関わる魅力的な事業への積極的な支援をイメージ付けられる。

全曹青のメリット

- ・ 櫻井会長が就任前より熱望していた徒弟研修会を実現できる。
- ・ 本山・宗務庁・全国宗務所と連携した大規模な事業を打ち出すことができる。
- ・ 海外徒弟研修と比べて、会員も含めより多くの人に周年事業にかかわって頂ける。
- ・ 全国組織としての存在意義を改めて周知できる。
- ・ 非加盟曹青会に対して全曹青加盟を促進できる。

国際事業の可能性について

- ・ 海外の青年会からの参加者を募った方が、“国際禅苑”としての總持寺をアピールできる。
- ・ “僧侶”という職業の大きな可能性と大事な役割を海外の仏教徒を通して客観的に学べる。
- ・ 東京オリンピックの開催決定を機に国際化の加速が想定される世情をいち早く実践できる。
- ・ 海外の仏教徒に禅の根本道場としての“總持寺”“曹洞宗＝禅宗”をアピールできる。
- ・ 全曹青の 40 周年事業の徒弟研修会としての独自性を周知させることができる。